

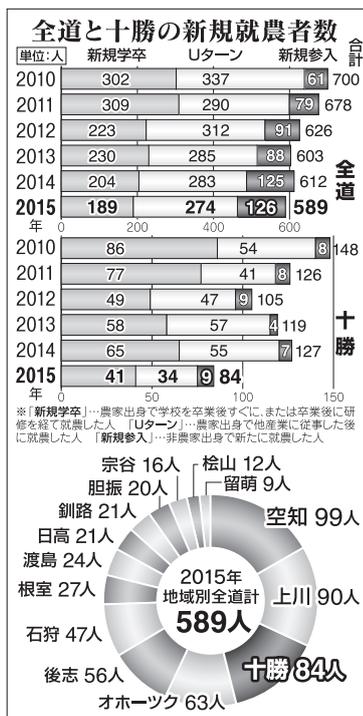
全道の新規就農者は589人で23人減少した。新規学卒が189人で前年から15人の減少、Uターンは274人で同9人減った。農業外からの新規参入者が同1人増えて126人となり過去最多になった。

就農者数の振興局別では空知が99人（同4人増）、上川が90人（前年同数）、十勝の順番。14振興局の中で前年より増加したのは空知、後志、石狩、根室、渡島、宗谷の6振興局となった。

新規就農者の経営形態別では、道内全体で稲作が最も多く168人（同9人増）、畑作は同51人減の157人、酪農が同6人増の110人、野菜が12人増の112人。稲作や畑作、酪農は農家出身者（新規学卒、Uターン）による就農が主体だが、野菜は初期投資が少なくて済むため新規参入者が多い傾向がある。

就農時の年齢はUターンの場合、30歳未満が108人で全体の4割、35歳未満が199人で7割、40歳未満が161人で8割を占めた。若い年齢での就農が目立つが、近年は40歳以上の割合も増えている。

新規参入の出身地別では、6割の75人が道内、次いで関東が17人、近畿の9人と続いた。

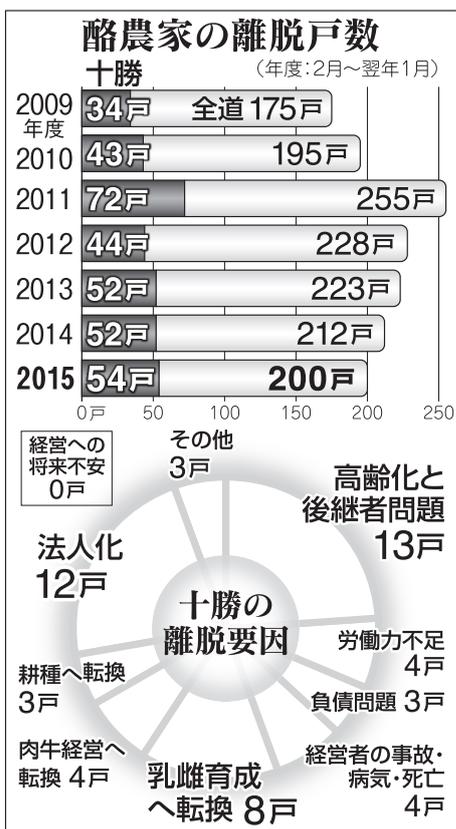


農業ガイド1078号

2016年10月8日

管内生乳出荷戸数 十勝1225戸（16年2月現在） 離脱は3年連続50戸台

道がまとめた今年2月1日現在の十勝管内の生乳出荷戸数は1225戸で、1月までの1年間で54戸が離脱した。要因は法人化や乳雌育成専門など経営の転換が最も多く、生産者の高齢化も目立った。大規模化で生乳生産の減少は避けられているものの、3年連続で50戸台の離脱となった。



道農政部がまとめた道内で生乳を出荷する酪農家の離脱状況調査。市町村やJAの協力を得て、ホクレンに販売委託していない生産者も含む道内の生乳出荷農家を対象に行った。

2月現在の生乳出荷戸数は全道で5926戸、うち十勝は14振興局で最も多い2割を占めている。十勝では新規参入が4戸あったため、差し引きは前年比で50戸の減少となった。

経営転換27戸、高齢化理由も

十勝の離脱の要因は、高齢化と後継者問題が13戸、法人化への転換が12戸、乳雌育成専門への転換が8戸など。耕種への経営転換は前年より6戸少ない3戸にとどまった。経営転換による離脱は27件で全体の半分を占め、他地区に比べてその比率は多かった。経営への将来不安で離脱したのは0戸だった。

宛名法人化で複数戸が統合した場合、代表者以外が離脱に集計される。十勝では法人化で離脱扱いとなったのは12戸。全道では今回、20戸が協業で4法人を立ち上げ、うち十勝は2法人を設立した。他地域よりも十勝では大型法人設立が進んでいることがうかがえる。

十勝の減少率は3.92%で石狩の4.41%に次いで高かった。